

議員定数2減案を賛成8反対5で可決

H27春改選時から14名に

議員提出議案

黒潮町議会の議員の定数を定める条例の一部を改正する条例

提出議員…山崎正男
賛成議員…西村將伸
同…浜村 博
同…坂本あや

趣旨 4つの観点から、議員定数を現在の16人から14人にすることを提案する。
1点目は、4年前に住民請求があり、4180人の要望が寄せられたことが一番の理由。

2点目は、人口の減少。現在、1年に約200人から250人が減少し、4年で約千人の人口が減少している状況を考えると、今の定数を速やかに変更する必要がある。
議員1人当たりの人口を見

ると、四十十市は人口3万5655人に議員20人で1782人、土佐清水市は1万5526人に12人で1293人、宿毛市は2万2231人に13人で1587人となっており、これらを担当能力から見ると、黒潮町は1万2千人の場合、16人で750人、単純計算だがまだまだ緩やかだと思

3点目は、近隣市町村の議員定数が10人とか14人に減少していること。四十十市は20人、四十十町は来年2月から18人。四十十市を除き、幡多郡の市町村は14人以下ばかりとなっている。

4点目は、国会議員の定数削減の意見のある中で、地方議会がこれだけ厳しい選択を先取りし、その結果を国会議員へ届けて、国会の改革をという意思表示、その警鐘を鳴らすためだ。

また、2名減による財源が、年間約500万円、10年で5千万円が活用できる。

それから、定数削減後の常任委員会の人数については、これから3月までに、十分に議員の中で検討して詰めていけば良いかと、考えている。
可決（多数）

Q 森 治史議員

4年前の住民動議の人数を重く受け止めていたという発

言と、まず14名減を決めてから委員会の体制を3月までに決める趣旨の話もあったが、それならば6月議会に提案をすべきだが、なぜできなかったのか。

また、2名減で年間500万円の削減を言われたが、このお金が必ずしも住民福祉に回るといふ確定もないと思う。それならば、定数削減も一つの方法だが、いわゆる報酬の削減という考え方もあるのでは。

A 山崎 正男議員

提案の時期だが、私は新人議員なので4月に入ってから14人というような、大ざっぱな考えを出せるような身分ではない。議会議員とは何かを自分で体験しながら考えてきた。

委員会の体制は、まず枠決めをしなければ、委員会も報酬も一緒の検討では決まらないと感じたからだ。

Q 宮地 葉子議員

趣旨説明で、説明のなかった議会の役割についてだが。

議会は、二元代表制で、町長と議員は別々の選挙で選ばれている。

住民の住所は様々で、職業も漁民、農民、商業者といろいろだが、それぞれの従事者の話はきめ細かく詳しい。

また、地域間格差や年齢層の違いもある中で、議員は、住民の代表として、いろいろな角度、地域から、住民の意見をここに集中させ、執行部に対し、チェックや監視をする。更に、提言もし、住民の声も届けていく。それが議会本来の役目。



津波被災地の現地視察を (H23年7月 南三陸町)



京丹波町ハタケシメジ栽培視察 (H23年10月)